

第294号

令和3年10月発行

発行人 福本陽平
霜仁会事務局 TEL:0836-22-2029
FAX:0836-31-7586
E-mail:jimu@soujinkai.jp
HP:http://soujinkai.jp/
印刷所 瞬報社オフリン印刷株

山口大学医学部

霜仁会会報

霜仁会賞のあゆみ

霜仁会賞運営委員長

山本 健

霜仁会賞は令和2年度で記念すべき50回を迎えました。そこで霜仁会賞のあゆみについて振り返ってみました。

霜仁会賞は昭和43年6月15日、山口市翠山荘で開催された評議員会で、当時の故林公夫幹事長から霜仁会会員の研究助成の提案に始まります。記念すべき第1回学術振興賞の受賞者にはS26年卒の故内野文彌先生をはじめ3名の先生が受賞されています。

S28年卒竹尾和典先生、5回のS42年卒沖田極先生、7回のS41年卒加藤絃先生などのちに教授となられ、活躍される錚々たる先生方が受賞されています。歴代の受賞者は霜仁会のホームページで閲覧できます。

10年後の昭和53年度から社会活動部門賞が新設され、現在の様な2部門制となりました。更に、学術部門賞には昭和59年度より山口大学医学部産婦人科学講座元教授の故藤生太郎先生からの基金による「藤生

賞」が追加され、昭和61年度からは「奨励賞」が増設され、本賞とともに三本立てとなりました。

選考は、学術振興賞は医学部医学科の5名の教授にお願いしております。社会活動部門賞は医学部医学科教授1名、学外の選考委員2名ですが、近年は宇部市医師会長、宇部日報社社長にお願ひしております。

受賞された先生方の喜びの声がわれわれ運営委員の喜びです。皆様のご応募をお待ちしております。

第50回霜仁会学術振興賞

本賞

「細胞内の鉄欠乏がミトコンドリアアフェリンを誘導することによりマイトファジーを誘導する」

川崎医科大学 肝胆脾胃科学

原 裕一 (平11年卒)



この度は霜仁会学術振興賞本賞を賜り、大変光栄に存じます。ご選考いただきました委員の先生方に心より御礼申し上げます。

私は1999年山口大学医学部卒業後、第一内科(沖田極教授、坂井田功教授)の下で博士課程を過ごさせていただきました。山口大学大学院博士課程では、C型肝炎ウイルス(HCV)が活性酸素を増強しアポトーシスを抑制することで肝発癌に寄与することを報告してまいりました。この活性酸素の主な産生源はミトコンドリアですが、ミトコンドリアは、ATPを産生するなど細胞内における重要な器官

という考えに至り本研究の実施となりました。本研究では鉄キレート剤がミトコンドリア修復機構であるマイトファジーを誘導し、肝発癌を抑制することを証明しました。またミトコンドリアアフェリン(FITMT)が鉄キレート誘導性のマイトファジーのkey moleculeであることを見出しました。これまで鉄キレートによる肝発癌の抑制機構は、鉄欠乏によるフェントン反応の抑制、酸化ストレス抑制に因るところが大と考えられてきたのですが、本研究により鉄キレートによる肝発癌の抑制にはFITMTが関与するマイトファジーの誘導が必要であることが明らかとなりました(ENBO rep 2020)。この研究の結果がマイトファジーの破綻によっておこる老化や代謝性疾患、神経変性性疾患、がんの治療に寄与することを期待しています。

最後に直接ご指導いただきました日野啓輔教授、ご協力いただきました築取いずみ先生、田中敦先生、岸文雄先生に心より感謝申し上げます。霜仁会の先生方には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

### 奨励賞

「自家線維芽細胞と末梢血単核球からなる積層細胞混合シートを用いた皮膚潰瘍治療」

山口大学大学院医学系研究科 器官病態外科学



溝口 高弘 (島根大学医学部 平23年卒)

この度は、霜仁会学術振興奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。ご選考頂きました選考委員の先生方には心より感謝申し上げます。私は平成23年に島根大学を卒業し、初期研修の後平成25年に故郷の山口県に帰還して器官病態外科学講座へ入局致しました。まずは、このような私を伝統ある霜仁会へ受け入れてくださり、誠に有難うございます。受賞論文は、難治性皮膚潰瘍に対して当教室で開発した細胞シート治療を用いられる細胞シートを積層化することにより、移植操作を容易とするのみならず、治療効果が増強される可能性のあることを報告し

たものです。

当教室では、以前より幹細胞治療による再生医療の開発に取り組んでおり、1999年に重症下肢虚血に対する自己骨髄細胞移植治療を世界に先駆けて実施しました。その後、移植細胞種を骨髄細胞から末梢血単核球に変更して治療の低侵襲化に成功しました。続いて、細胞シート技術を応用することにより重症下肢虚血に加え静脈不全や糖尿病など原因が多岐に及ぶ難治性皮膚潰瘍の治療へも適応を拡大することが可能と考え、真皮の基質となるコラーゲンを分泌する線維芽細胞と、種々の細胞成長因子を分泌する末梢血単核球の2種類の細胞種で構成される細胞混合シートを作製する方法を開発し、その有用性を動物実験で示しました。

しかし、作製された細胞混合シートは単層で菲薄なため、移植操作に難がありました。そこで今回、細胞混合シートの強度を向上することを旨とし、積層細胞混合シートの開発に取り組みました。線維芽細胞の播種細胞数を増加させるとともに、培養方法とシートの剥離方法を変更することで、厚みのあるシートを作製することができ、移植操作は容易となりました。さらに積層細胞混合シートは従来のシートよりも増殖因子の分泌能が向上しており、実際にマウス皮膚潰瘍モデルに対して移植したところ、より多くの血管新生がみられ、治癒が促進されていた。

今開発した積層細胞混合シートの作製法は当教室で施行された臨床研究にも応用され、トランスレーショナルな研究成果が挙げられて非常に嬉しく感じております。最後に本研究のご統括を賜りました濱野公一教授をはじめ、ご協力頂きました第一外科の皆様にご心より感謝申し上げます。霜仁会の先生方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 藤生賞

「前立腺癌における薬剤耐性機構の解明と克服に向けての基礎的検討から臨床応用への取り組み」

山口大学大学院医学系研究科 泌尿器科学



松本 洋明 (平8年卒)

この度は栄誉ある藤生賞にご選出頂きまして大変光栄に存じます。私は平成8年に山口大学医学部を卒業後、故内藤克輔教授の主宰されていた泌尿器科学教室に入局致しました。関連病院での研修後に大学院では浸潤性膀胱癌における抗癌剤耐性機序の解明としてアポトーシス関連因子の解析とマイクロサテライト領域の不安定性の解析を行いました。関連病院で膀胱癌、前立腺癌を始めとした手術手技の研鑽と薬物療法の幅広い診療に従事させて頂くことで、他癌種に比べて遅れている薬剤耐性の克服が喫緊の課題であるとの認識を深める事となりました。

松山豪泰教授のご高配にて2009年から2011年までBritish Columbia大学Martin Gleave教授の元に留学の機会を与えて頂き、去勢抵抗性獲得メカニズムの解明についての研究に従事しました。去勢抵抗性マウスモデルを確立し、細胞レベルでのアンドロゲン受容体(AR)シグナル伝達経路を介する増殖機構とそれを介さない増殖機構の解明を行いました。当時新規薬剤であり、現在去勢抵抗性前立腺癌に対する第一選択薬であるAR阻害剤(開発コードMDV3100:一般名エンザルタミド)を開発段階から研究し、AR抑制によりエンザルタミド抵抗性や去勢抵抗性を高度に獲得することや、エンザルタミドがAKTとMAPKシグナル経路の活性化と同様にクラスリン(CLU)の活性化を

生じるということ、およびPR1のリン酸化により誘導されるCLUがp90Rskを活性化させ、それがまたPR1のリン酸化を助長するというフィードフォワードループにより惹起されていることを明らかにしました。復学後も科研費獲得にて尿路悪性腫瘍における薬物耐性克服に関する基礎的検討を進める一方、臨床においてはエンザルタミドの第3相臨床試験であるAFIRM試験やPRIVAH試験に参加させて頂き、市販薬として上市の一助になったことは感慨深いものがありました。また、松山教授が委員長を務める膀胱癌診療ガイドライン2019年版の作成事務局として仕事をさせて頂き、本邦の膀胱癌診療の一端を担わせて頂いたことは大変光栄に思っております。また、現在は共同獣医学部の先生方と前立腺癌、膀胱癌の研究を進め、尿路悪性腫瘍の予後改善を目指しています。最後になりましたが、研究活動をご指導頂きました山口大学の先生方、国内多施設の関係者の皆様、松山教授をはじめとした泌尿器科学講座の先生方に心より感謝の意を表し、受賞のご挨拶とさせて頂きます。

## 第40回霜仁会社会活動部門賞

「勤務医としての医療における問題点の  
情報発信とその対策行動」

山口労災病院

加藤 智 栄

(昭57年卒)



社会活動部門賞を賜り誠にありがとうございます。霜仁会の諸先生、関係者の方々に感謝申し上げます。

1982年に山口大学を卒業し、Almightyの外科医を目指し、新しい外科治療やがん検診の重要性をメディア等を介し市民に伝え、学会発表・論文報告をしました。1999年当時新しい治療法であった心拍動下冠動脈バイパス術を地方紙で紹介。2005年に女性のがんシンポジウムが開催され、「今日の乳がん治療と検診の意義―乳がん医療の現場から」と題して講演。2010年、胃がんの原因や治療法を読売新聞で概説。腓頭十二指腸手術で「腓空腸吻合術の工夫―

腓管 no stent による腓空腸端々連続吻合―」が日本消化器外科学会要望演題として採用され、論文化 (Surg Today 43:1008-1012, 2013)。2013年、「肺がんについて考える」を読売新聞に掲載し、検診・検査・治療法を説明。一方、医療が健全に発展するための情報発信と活動を行いました。2007年、「日本の医療は技術料は低いが材料費は諸外国と比べ2〜5倍高い、内外価格差のある医療材料費を抑え、その分を急性期医療につき込むべき」、2009年、「リーマンショック後の経済危機を脱するため、公共事業よりも経済波及効果の高い医療に財政支援し、医師事務作業補助者などの投入で医師や看護師の負担が軽減され、雇用創出・景気浮揚につながる」、と読売新聞「論点」で主張。「医

## 社会活動部門賞

「地域に根ざした発達障害の医療的支援  
体制の構築」

医療法人テレサ会西川医院 発達診療部

林 隆

(昭58年卒)



この度は、霜仁会社会活動部門賞を賜り光栄に存じます。私は山口大学小児科入局後一貫して臨床小児神経学と発達医学を専門としてきました。小児神経疾患の診療は診断やリハビリテーションに加えて障害としての困難さに対する生活支援が重要となります。卒後10年目からは小児神経疾患の診療は優秀な後輩にお願いするようになりました。発達障害は(国)国際生活機能分類)で示される「社会モデル」としての障害の側面が強く、支援の視点が不可欠な障害です。長期フォローアップによって明らかになる真の発達予後を見据えた上で、現状の肯定的な評価に基づく助言と、発達障害児を支える親・保護者

療に財政支援しても国際競争力は落ちない、医療は経済波及効果が大きく、大きな社会貢献をしている、医療材料費や高額医薬品を適正価格にし、余剰財源を急性期医療に回すこと」を主張 (新医療36:22-24,2009)。2010年、日本医師会代議員会(日医)で「医療が健全に発展するための財源」健全に発展するための財源として医療戻し税導入を提唱、2012年、朝日新聞「私の視点」で「病院の消費税負担―医療にかかる税率ゼロに」と主張。救急医療の問題解決と医療裁判への対策として、日医で「医師の善意がこれ以上廃れないようにするための提言」を発信。山口県の医師確保対策…2016年、読売新聞「意見視点」に「若手医師の流出防止」が掲載されました。働き方改革として、日医で医師個人にインセンティブの付与と救急車の有料化を提案しました。今後は、医療がこの国の発展や安全保障に必要である事を訴えていくつもりです。皆さんのご支援をお願いします。

がなく地域医療圏で障害児の診断療育体制が構築されていたため、有病率6%以上といわれる発達障害の診断療育体制もスムーズに構築することが出来ました。山口県小児科医会の全面的協力を得て、山口県は全国で最初に全ての市町で5歳健診を実施し、発達障害児の適時発見とその後の就学支援を円滑に行えています。発達障害者支援法の制定と発達障害に適応のある薬剤が発売されたことも追い風となり発達障害が注目されるようになりました。発達障害は(国)国際生活機能分類)で示される「社会モデル」としての障害の側面が強く、支援の視点が不可欠な障害です。長期フォローアップによって明らかになる真の発達予後を見据えた上で、現状の肯定的な評価に基づく助言と、発達障害児を支える親・保護者

を支えることが支援の根幹だというのが私の持論です。山口大学小児科神経グループの全てのメンバーが発達障害をフォローアップしていくというスタンスを継承してくれていることは心強い限りです。山口大学から山口県立大学に移動し平成24年から現在の西川医院で「こどもの障害を治すことは出来ないし、治す気もない。なぜなら、治さなければならぬような悪い発達などどこにもないからである。」というポリシーで診療活動を続けてきました。この間、ご指導ご支援いただいた山口大学小児科名誉教授古川漸先生および長谷川俊史教授をはじめとする小児科医局の諸先生と西川医院の西川雅彦院長・浩子副院長(昭和60年卒)には深く感謝いたします。これからも発達障害のある子どもたちの言葉にならない言い分を代弁しつつ、子どもとその親・保護者の安心できる生活環境作りを支援していきたいと思っております。霜仁会の先生方には、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

理事會 報告

第3回 理事会

令和3年7月16日(金) 19時より霜仁会医学交流会館3階会議室において、22名の出席のもと開催された。

【報告事項】

- 1. 5月21日(金) 霜仁会賞運営委員会 (山本(健)(藤岡))
- 2. 国際奨学金免除申請について (藤岡)

医学化学講座の国際奨学生 Srivastava Prathiba の奨学金返還免除が承認された旨報告された。

3. その他

- ・ 消化器内科学講座教授

に、高見太郎先生(山口大学大学院医学系研究科消化器内科学講座准教授)が選出された。7月1日付け就任

- ・ 分子細胞生理学講座教授に、宮本達雄先生(広島大学原爆放射線医科学研究所准教授)が選出された。

- ・ 大阪大学大学院医学系研究科・医学部感染制御医学講座(特別協力講座)教授に、忽那賢志先生(国立国際医療研究センター国際感染症センター(医長)が就任された。

事務局長交代



令和3年9月30日付で霜仁会事務局長常宗克行氏が退職しました。

常宗氏は、山口大学事務職員を退職後、12年と半間にわたって勤務し、その間、一般社団法人への移行認可申請などにご尽力いただきました。なお、令和3年10月1日より河田直人氏が事務局長を引き継ぎます。

就任挨拶

「世界に冠たる千葉大学へ」

千葉大学長 中山 俊憲



昭和59年卒の中山俊憲です。本年4月より千葉大学学長を務めております。今回は霜仁会会報に「学長「ご挨拶」として寄稿する機会をいただき心より感謝申し上げます。在学中は軟式テニス部に所属し、また故柴田二郎先生と読書会をするなど、宇部の地で学生生活を謳歌していたころのことを昨日の様に思い出します。卒業後、臨床研修をしないで東京大学の多田富雄先生のところに入社し、大学院生として免疫学を専攻しました。その後、米国NIHに留学し、1991年に帰国後は東京大学医学部、東京理科大学生命科学研究科、千葉大学医学部に免疫学の研究を続けて参りました。専門はヘルパーT細胞で、本来、感染症の

では、「学問の多様性を尊重しつつ、獨創性に富む発想から新たな研究領域の開拓に繋がる世界水準の学術研究や、社会に変革をもたらすイノベーションな開発研究を推進する」こと。社会貢献については、「千葉大学を起点に教育、医療、産業、行政、地域コミュニティなどへの幅広い社会貢献を果たし、地域ステータスを向上させ、地域の誇りとしての千葉大学に成長させる」ことです。これらの思いを胸にリーダーシップを発揮して大学運営を行いたいと思っています。この会報をお読みの霜仁会会員の皆様におかれましては、同窓のご縁ということ、今後ともよろしくご指導いただきますようお願い申し上げます。最後に、霜仁会に関係の皆様のご健勝とご活躍をお祈り致します。



令和3年度 霜仁会賞募集のお知らせ

第51回 学術振興賞 第41回 社会活動部門賞

- 1 今年も霜仁会賞を募集しますので奮ってご応募下さい。
- 2 応募〆切 令和3年10月31日 (消印有効)
- 3 詳しくは、霜仁会ホームページ (<http://soujinkai.jp/>) を参照して下さい。不明な点は霜仁会本部にお問い合わせ下さい。

TEL (0836) 22-2029

### 就任挨拶

## 教授就任のご挨拶

### 新任教授

山口大学大学院医学系研究科  
消化器内科学講座

教授 高見太郎



令和3年7月1日付けで、山口大学大学院医学系研究科消化器内科学講座の第6代教授に就任しました高見太郎と申します。就任にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

私は埼玉県立浦和高校を卒業し、平成5年に山口大学医学部に入学しました。医学部在学中は軽音楽部でトロンボーンを担当し、部長を務めました。卒業後は「死因第1位である癌を内科治療で治したい」という「志」のもと、沖田極教授が主宰されていた山口大学医学部先端分子応用医科学講座・消化器病態内科学（旧内科学第1講座）に入局し、肝臓を専攻しました（肝臓内科主任 坂井田功先生・平成17年より第5代

私を育ててくれた消化器内科学講座は、週れば胃カメラの開発、超音波内視鏡の胃5層構造、Strip biopsy法、ゲルカゴン・インスリン療法、鉄キレート剤による肝臓動注療法、自己骨髄細胞投与療法から始まった肝臓再生療法と、常に挑戦してきた教室です。今後は

教授）。そして多くの肝癌患者さんに貢献できる研究がしたいと思ひ、大学院（指導医 寺井崇二先生・平成27年より新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器内科学分野教授）および海外留学（NCI NIH USA; Dr. Snorri S.Thorgeirsson）では「肝発癌機構の解明」に取り組みました。平成20年に帰国後は肝癌の母地となる肝硬変自体の治療を目指す肝臓再生療法は「肝癌のChemo-prevention」となることを報告し、研究の比重を再生療法へと移しました。特に非代償性肝硬変症に対する培養自己骨髄間葉系幹細胞を用いた再生療法の開発に関する研究では、肝臓再生基盤学（寄附講座）での研究活動を含め「ベンチからベッドサイドへ」を実践し、令和2年9月には医師主導治験「自己完結型肝硬変再生療法」を開始しました。

肝臓再生療法は「肝癌のChemo-prevention」となることを報告し、研究の比重を再生療法へと移しました。特に非代償性肝硬変症に対する培養自己骨髄間葉系幹細胞を用いた再生療法の開発に関する研究では、肝臓再生基盤学（寄附講座）での研究活動を含め「ベンチからベッドサイドへ」を実践し、令和2年9月には医師主導治験「自己完結型肝硬変再生療法」を開始しました。

准講会会長 山口道也

### 学内報告

## 准講会会長就任の挨拶



霜仁会の先生方には平素より大変お世話になっております。2021年度より前会長の丸本芳雄先生の任期満了に伴い会長に就任致しました山口道也と申します。

私は2002年に本学を卒業の後、皮膚科学講座に入局し臨床研修を積みまし取得し、病棟医長も務めました。2014年11月から山口大学医学部附属病院医療安全推進室（現医療の質・安全管理部）の副室長・講師を務めさせていただきました。2018年から准教授に昇任し、院内の医療の質・安全の向上に関する支援等に従事しております。山口大学医学部准講会は、会員による教育および研究活動の推進ならびにこのた

めの大学運営の改善を図り、あわせて会員相互の親睦に寄与することを目的とした会となります。山口大学医学部および医学部附属病院に在籍する准教授、講師並びに併任講師が会員であり、現在約110名の会員で構成され、副会長は宮崎陸子先生（医療人育成センター）、木田裕之先生（神経生理学講座講師）の両名にお務め頂いております。

今年度は附属病院B棟および臨床研究棟の改修も始まり、充実した教育・研究・診療環境の整備が進んでいます。今後このような環境の中で、霜仁会の諸先生方のご支援を賜りながら活

## 《事務局からのお願い》

事務局からの郵便物が転居先不明で、多数戻ってきます。住所・所属等に変更がありましたら、ファックスまたは、Eメールでお知らせください。

霜仁会事務局

FAX: (0836) 31-7586 E-Mail: jimus@soujinkai.jp

動を行っていただければと考えております。今後ともさらなるご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

# 第126回日本解剖学会総会・ 全国学術集会及び第98回日本 生理学大会において

## 受賞報告とお礼

医学科五年 神経解剖学講座

濱崎 楓子



2021年3月にオンラインで開催された第126回日本解剖学会総会・全国学術集会、第98回日本生理学大会合同大会の学生セッションにおいて、優秀賞をいただくことができました。題名は「マウス脳におけるSTB/HAPI発現パターンに対する加齢の影響」です。神経細胞の細胞質封入体である斑点小体(STB)と、そのコアタンパク質であるHuntingtin associated protein-1(HAPI)は、種々の細胞ストレスに対して神経細胞死抑制的に働く可能性が示唆されており、神経変性疾患研究や治療法開発の新たなアプローチとなることが期待されています。

本研究ではマウス脳内におけるSTB/HAPIの加齢に伴う発現量や細胞内局在の変化を明らかにすることを目的とし、生化学的・形態学的手法を組み合わせた解析により加齢性にHAPIの発現量が減少し、それに相関してSTB数も減少することを報告しました。多くの神経変性疾患の発症率は年齢に伴い上昇することが知られていますが、本研究で得られた成果はSTB/HAPIの発現パターンの変化が加齢に伴う神経変性疾患発症率の上昇の一因となっている可能性を示唆します。老化の進行とともに細胞死・神経変性が引き起こされるメカニズムについては未だ不明な点が多くあります。本研究成果はこのメカニズムとSTB/HAPIの関連を検証していくためにも意義のある成果であると考

えています。

研究活動は大変刺激的で充実している一方で、日々の臨床実習等との両立に悩むことも少なくありません。そのような中で、全国で研究活動を行う多くの医学生と学会の場を通して交流し、また優秀賞として研究成果を評価していただいたことは、研究活動へのモチベーションを更に高め、研究の次のステップに向け原動力を得ることのできた有難く貴重な機会となりました。コロナ禍でのオンライン開催にご尽力いただき、学生

## 学会受賞報告

医学科四年 神経解剖学講座

田中 葉月



第126回日本解剖学会総会・全国学術集会及び第98回日本生理学大会にて「様々なストレス下におけるHAPIの細胞死抑制作用の検討」とのテーマで発表し、優秀賞を頂きました。私は昨年度の自己開発コースで神経解剖学講座に所属し、本テーマで研究を行

かではありませんでした。そこで本研究では、初めてHAPIの細胞死抑制作用に焦点を当て、各種細胞ストレス下での作用を調べました。その結果、HAPI導入細胞では小胞体ストレス下のみ、神経細胞のアポトーシスが有意に抑制されました。これにより、HAPIは異なる種類のストレスにより誘引されるアポトーシスを抑制し、その作用はアポトーシスに依存することが示唆されました。HAPIの細胞死抑制作用について、より理解を深めることで実用的には細胞ストレス関連疾患の治療薬として使用することも期待されます。本研究を進める上では条件検討すべき点も多く、実験が思い通りに進まずに苦戦することも多々ありましたが、日々得られた結果に対し先生方と議論を重ね、世に新しい知見を得た際には大きな達成感を覚えました。最後に、ご指導下さいました神経解剖学講座の先生方に感謝申し上げます。今後は本研究で明らかにした抑制作用の機序を解明するなど、更に深い検討を行うため、より一層研究に邁進したいと思っております。



## 教室紹介

### 免疫学講座

当講座は、昭和50年4月に「寄生体学講座」として新設され、その後平成13年4月の医学科における講座再編成に伴い「細胞シグナル解析講座」と改称されました。さらに平成26年4月には「免疫学講座」と改称され、現在に至っています。

初代教授の山本繁夫先生は昭和51年3月に本学教授に就任され、講座の立ち上げと運営に御尽力されました。昭和59年3月には2代目教授として、山本直樹先生が京都大学ウイルス研究所から着任され、HIV感染およびAIDSに関する研究に取り組みされました。平成3年6月、高田賢藏先生が日本大学医学部より第3代教授として着任され、CD4ウイルスベクターに関する研究を展開されました。平成8年11月には広島大学より河野道生先生が第4代目教授として着任され、主に多発性骨髄腫の研究に取り組まれました。

平成23年5月に米国メリーランド州立大学より着任した玉田耕治のもと、様々な難治性疾患に対する効果的な新規免疫療法の研究、開発を推進しています。特に、近年著しい発展を遂げているがんに対する免疫療法は玉田が長年取り組んでいる研究領域であり、その中でもCAR-T細胞療法と呼ばれる治療法に着目して基礎的研究と実用化に向けた臨床開発を行っています。CAR-T細胞とは、患者さんから免疫細胞を取り出して人工的に遺伝子を改変することでがんに対する免疫応答（＝攻撃力）を強化した細胞であり、これらを大量に増やして患者さんに投与することで、がんに対して高い治療効果を発揮することが期待されています。CAR-T細胞療法は白血病などの血液がんには治療効果が示されているものの、がん患者の多くを占める固形がんにおいては未だ有効性が確立されていないことが課題とされています。我々の研

究チームは固形がんに対して優れた治療効果を発揮できる新しい（neo）細胞療法の開発を進めています。また我々の研究成果を臨床現場に還元し、効率的に国内外へ展開することを目指して、様々な製薬企業やバイオベンチャー、アカデミアのグループとの共同研究を積極的に推進しています。最終的には、がんを含めた難治性疾患に対する効果的な免疫療法を開発することで、我々の研究成果を山口から世界に向けて発信したいと考えています。

現講座の教員スタッフは、平成24年に着任の佐古田幸美准教授、安達圭志講師に加え、平成30年4月に城崎幸介助教が着任致しました。佐古田准教授は米国メリーランド州立大学より着任し、骨髄移植やがんに対する免疫療法の開発研究に取り組んでいます。平成26年には、宇部興産学術振興財団の第54回学術奨励賞・渡辺記念特別奨励賞を受賞され、優れた実績をあげています。安達講師は、長崎大学熱帯医学研究所から着任し、遺伝子組み換え技術を利用した新規がん免疫療法の開発研究に精力的に取り組んでいます。平成29年

度の武田科学振興財団、新日本先進医療研究財団の研究助成に採択、また平成31年に第48回霜仁会学術振興賞本賞を受賞されるなど、素晴らしい活躍をされています。城崎助教は、本大学産科婦人科講座より着任し、主に学生教育を担当しています。平成30年度には、山口大学教員教育評価でのオンライン学生評価優秀賞を受賞されるなど、学生教育に貢献しています。学部教育においては、免疫学、ウイルス医動物学、医学英語などの医学教育を担当し、講義、実習を通じて専門知識や技術を教授しています。また、アカデミックドクター（高度学術医）の育成を目的としたカリキュラムの一環である自己開発コース、修学論文フェュートリアルなどを担当し、学術的向上心と探求心、国際的視野を持った医師、研究者の育成に取り組んでいます。また大学院においては、

本大学の各専らだけでなく他大学からも特別研究生として大学院生を広く受け入れ、研究の助言や指導を行っております。玉田の着任から10年を迎え、令和3年6月現在、教員スタッフ3名、大学院生

3名、研究員5名、事務補助員1名と、企業からの共同研究員2名の体制で活動しています。教室員一同、今後ともより一層の努力をしていく所存ですので、何卒宜しくお願い申し上げます。

霜仁会の諸先生方の日頃のご厚情に深謝致しますとともに、さらなるご指導・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。  
（玉田耕治、佐古田幸美、大橋玲子）



# 病 院 紹 介

## 山口県立総合医療センター



病院長

武藤正彦先生



職しています。消化器外科と形成外科は長崎大学からの派遣をいただいています。が、それ以外の診療科は大半が山口大学の医局からの派遣となっています。研修

医の諸君には将来山口大学の教授を目指してもらえ、ような優秀な人材の育成に福迫俊弘副院長（昭和62年山口大学）を中心に努めています。これまで山口大学出身の研修医は80パーセント以上の人が山口大学のいづれかの医局に入局しています。この高い入局率は当医療センターとしての誇り

しました。最新の医療機器に出会うことで、山口県に残って整形外科医を目指すとする意欲ある若手医師を一人でも多く輩出できたいと願っています。

診療の構築に関する基盤開発研究が厚労科研究を得て行われています。質の高いへき地医療の展開に貢献してくれることを期待しています。その他、微小ターゲットへの照射が可能な最新のリニアックを導入したが、ん放射線治療とがんゲノム医療を組み合わせたがん診療の推進にも力を入れていく予定です。そのための臨床研究や治験にも積極的に取り組む準備を進めています。前段階として遺伝診療科を昨年10月に新設し、診療部長には佐世正勝先生（昭和60年山口大学）に就任してもらいました。エラス・ダンロス症候群などの稀少難治性疾患への挑戦も今後重要な研究テーマだと考えています。

平素より霜仁会並びに山口大学大学院医学系研究所・医学部附属病院の先生方には多大なるご支援とご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。この度は病院紹介の貴重な機会をいただき、大変光栄に存じます。

まず、当医療センターの設立の経緯を紹介します。昭和24年4月、日本医療団山口県中央病院を山口県が買収し、防府市車塚の地に山口県立防府総合病院として船出しました。

4年後に山口県立中央病院に名称を変更し、昭和30年2月に市内八王子に移転

しました。そして、昭和58年5月に一級河川の佐波川を挟んだ対岸に位置する市内大崎に移転し現在に至っています。平成17年4月に病院の名称を山口県立総合医療センターに変更し、平成23年4月、地方独立行政法人山口県立病院機構として独法化を行い、当医療センターと山口県立こころの医療センターの2つの病院を傘下に置き、岡紳爾理事長（昭和58年山口大学卒）の指揮のもと、各人が職務に専念しています。当医療センターは「県民の健康と生命を守るために満足度の高

い医療を提供する」との理念を掲げ、救急医療をはじめ高度急性期医療、総合周産期母子医療、がん診療、感染症医療、災害医療、へき地医療のセンターとしての機能を発揮しています。事業規模は、一般病床490床（ICU12床、HCU6床）、新興感染症に対応可能な感染症病床14床の計504床の病床を擁し、令和3年4月現在、医師数148名、看護師数560名、総数が1121名の職員が働いています。研修医の先

生も自治医大卒を含め、毎年12名から15名の範囲で入

3年間連続で安定した黒字経営を維持しています。藤井崇史統括副院長（昭和54年山口大学卒）の経営手腕の巧みさが光るところです。他方、現在進行中の地域医療構想計画の中で、当医療センターが生き残りをかけてどのような戦略を企画していくべきか5疾病6事業を見据えた上で模索している最中です。分野別にみると、伝統ある整形外科は人工関節置換術の領域で中国・四国地域でトップクラスの手術件数を誇っています。

へき地医療支援センターでは、へき地医療の推進に向けた次世代型オンライン

命を守るために満足度の高

年12名から15名の範囲で入

支援ロボットを2機種導入

この度、機能が異なる手術

支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



医書のことなら全てお任せ下さい。

- 常時 10,000点の在庫。
- 便利な試覧制度と即日納品も可能なスピーディー宅配便。
- インターネットによる医学書の最新情報の提供と注文が可能。

《 日本医書出版協会認定  
医学・看護学専門書店 》

# 井上書店

宇部店 〒755-8566 宇部市南小串2丁目3番1号  
TEL (0836) 34-3424 FAX 34-3090  
e-mail : ube @ mm-inoue.co.jp

小倉店 〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目1-20  
TEL (093) 533-5005 FAX 533-9789  
e-mail : kokura @ mm-inoue.co.jp

[ホームページアドレス]

<http://www.mm-inoue.co.jp>



## Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。  
より健やかに輝かしい明日を。

武田薬品工業株式会社  
[www.takeda.com/jp](http://www.takeda.com/jp)



ご結婚・ご宿泊・会議・会食に

# 国際ホテル宇部

☎ 0120-375931

山口県宇部市島1丁目7-1

<http://www.kokusaihotel-ube.co.jp>

まだないくすりを  
創るしごと。



明日は変えられる。



アステラス製薬株式会社

[www.astellas.com/jp/](http://www.astellas.com/jp/)



イノベーションに情熱を。

ひとに思いやりを。



Daiichi-Sankyo

えっ！これがポンプ？

日本初。チューブフリーのパッチ式インスリンポンプ。  
**MEDISAFE WITH**™

一般的名称：ボータルインスリン用輸注ポンプ 販売名：メディセーフウィズ 医療機器承認番号 229008Z00374  
テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡豆 2-44-1 [www.terumo.co.jp](http://www.terumo.co.jp)  
登録商標：TERUMO  
記載されている会社名、登録商標は、テルモ株式会社およびその関係会社による登録商標です。  
© テルモ株式会社 2020年7月

山口大学医学部霜仁会の

# 会員総合補償制度

## 中途加入受付中!

中途加入の場合、毎月20日までにお申込みいただくと翌月の1日が補償の開始日となります。

団体割引が適用されるため、**保険料が割安**です!!



**産業医等活動保険にもご加入できます!**  
(勤務医師賠償責任保険任意オプション)

会員総合補償制度のおかげで安心して医療に従事できます

**万一の医療事故を補償**

**医師賠償責任保険**  
(勤務医向け)

**団体割引 20%**

**地震や日常生活によるケガ 携行品賠償責任を補償** 団体割引 5%

**傷害補償**

- ◆国内外、24時間、事故によるケガを補償します。(地震・噴火・これらによる津波によるケガも補償します。)
- ◆ケガ以外にも携行品の損壊など、様々なリスクを補償します。
- ◆年齢にかかわらず保険料は一律です。

**働けなくなった時の収入を補償** 団体割引 10%

**所得補償**

- ◆病気やケガで就業不能となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆入院はもちろん、自宅療養もカバーできます。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

**万一のがん・病気・ケガを補償**

**がん補償** 団体割引 10%

- ◆がんと診断確定されたとき、診断保険金が支払われます。
- ◆入院保険金は1日目から何日も補償されます。
- ◆手術保険金は何回でも補償されます。(手術の内容・種類によっては回数の制限があったり、お支払の対象とならない場合があります。)
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

**医療補償**

- ◆病気だけでなくケガによる入院も補償されます。
- ◆入院保険金は入院1日目から補償されます。(限度日数あり)。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

**突然介護が必要になった時に保険金をお支払** 団体割引 10%

**介護補償**

- ◆公的介護保険制度に基づく要介護2以上の認定を受けた場合
- ◆東京海上日動所定の要介護状態(要介護2用)と診断されその状態が90日を超えて継続した場合いずれかの場合、保険金(一時金)をお支払いします。

**長期間働けなくなった時の収入を補償** 団体割引 10%

**団体長期障害所得補償**

- ◆病気やケガで就業障害となった場合に、先生方の所得を補償します。
- ◆長期にわたり(最長5年)生活費をお届けします。
- ◆ご加入の際、医師の診査はありません。(健康状態告知のみ)。

詳細はパンフレットをご覧ください。この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体生活総合保険の概要についてご紹介したものです。詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡しする保険約款および協定書により。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。尚、ご不明な点等がある場合には、取扱代理店までお問い合わせください。

申込書類・資料のご請求やお問い合わせはお電話もしくはメールで下記取扱代理店までお願い致します。

<p><b>お問合せ先・取扱代理店</b></p> <p><b>株式会社パイオニア</b> (平日)午前9時~午後5時</p> <p>〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町4-4-16 小泉第2ビル3階</p> <p>TEL: 0120-010-938 FAX: 0120-921-051</p> <p>http://www.pioneeritd.com yamadai@pioneeritd.com</p>	<p><b>引受保険会社</b></p> <p><b>東京海上日動火災保険株式会社</b></p> <p>(担当課) 医療・福祉法人部 TEL: 03-3515-4143</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">&lt;募集番号&gt;:20-TC08805 2021年2月作成</p>
---	---

**マングローブの森づくり。それは、豊かな地球を未来に届けること。**

マングローブ植林は「地球の未来にける保険」です。これからも、ともに未来へ。

**マングローブ価値共創100年宣言**

**東京海上日動**

医療・福祉法人部  
東京都千代田区三番町6-4 〒102-8014  
お問い合わせ先(TEL):03-3515-4143 www.tokiomarine-nichido.co.jp

To Be a Good Company



**ANA  
CROWNE PLAZA®**  
AN IHG® HOTEL  
UBE

ANAクラウンプラザホテル宇部  
〒755-8588 山口県宇部市相生町 8-1 Tel:0836-32-1112(代)

医療関連事業  
疾病の診断から治療までを担う



ニュートラシューティカルズ関連事業  
日々の健康維持・増進をサポートする

**両輪で身体全体を考える**

世界の人々の健康に貢献する  
トータルヘルスケアカンパニーを目指します。

Otsuka-people creating new products  
for better health worldwide



Otsuka 大塚製薬

<https://www.otsuka.co.jp/>

印刷を企画から  
在庫管理・発送まで **一括サポート!**  
まずはお気軽にご相談ください。

**瞬報社オフリン印刷株式会社** [ 本 社 ] 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷2410番地  
TEL 083-972-5678 FAX 083-973-1912  
[ 営業所 ] 広島・下関物流センター

**病理組織・細胞診検査  
動物実験研究用病理標本作製**



**地域医療に貢献し、共に発展する検査センター**

登録No.100号の登録衛生検査所として病理検査部門の検査を行っています。各種臓器の生検、手術標本はもちろんのこと、研究用試料も扱っています。また、細胞診検査においても各種検体を扱っています。

**すばやい対応・迅速・正確**

持ちこまれた検査物は大事なお客様です。検査別、材料別に適した処理を迅速に行います。受付から結果報告まで一貫したシステムで対応しております。

**責任が持てる標本作り**

最新の設備を導入し、それらの機器は常に管理され、運用されています。ステップ毎に管理された行程は、日々の仕事を円滑にし、精度の高い検査情報として提供致しております。

**標本が教科書**

細胞診では毎日の業務の積み重ねがよりよい結果をもたらします。より豊富なコメントと診断精度の向上に日夜努力しております。

- 検査項目**
- 細胞診：婦人科
  - 細胞診：一 般 (呼吸器・泌尿器・体腔液・その他)
  - 病理組織診断：各種臓器の病理組織検査  
特殊染色 (免疫染色法を含む)  
ER、PgR、HER2染色法
  - 研究用病理組織標本作製  
※詳細は検査案内書参照

- 結果報告**
- 受け取りから結果報告まで  
細胞診：2～3日  
病理組織診断：3～4日  
(脱灰脱脂や特殊染色が必要な場合は多少時間がかかります)  
※お急ぎの場合はその都度対応いたします

**組織、細胞診検査の集配業務行っております。** 各種依頼用紙、試料瓶などはご一報頂ければお届けします。新規の医療機関でもお電話頂ければすぐに伺います。

※詳細は検査案内書を参照してください。検査料金は当センターの検査料金規定によります。

**(社)霜仁会検査センター** 〒755-0046 宇部市南小串1丁目2-11 霜仁会医学交流会館2F  
TEL 0836-31-7510 FAX 0836-31-7590

# ジエネシス

## 大学生生活の現状

医学科 一年 兼崎 舜



光陰矢の如しとはまさに

このことで、私が山口大学の門を叩いて早半年が過ぎました。この半年は毎日新鮮で刺激に満ちていました。大学での講義は高校までの授業よりもさらに専門的な内容を扱っており、毎日目から鱗が落ちる思いでした。小串キャンパスでの週1回の医学入門では来年度から始まる解剖実習や医学史、講座でのディスカッションを通じて医学生としての自覚を持つことができました。

新たな学友達も私の大学生活をより色鮮やかにしてくれます。医学科は他の学部学科と比べて学生の出身地や年齢に幅があります。私は1年浪人していたため、入学当初は周囲と馴染めるかどうか少し不安でしたがそれは全くの杞憂であり、

今では個性豊かな仲間と共に楽しく毎日を送っています。彼らは人間として大変魅力的で、日々言葉を交わす度に彼らとの出会いに感謝しています。

硬式テニス部での活動も私の大学生生活には必要不可欠な存在です。私は中学・高校と陸上部に所属しており、硬式テニスの経験は皆無でした。それに加え浪人生活での慢性的な運動不足からテニスコートに立って

いられるかどうか心配でした。しかし新歓での先輩方の優しいコーチングや心地よい部の雰囲気から入部を決意しました。灼けつくような日差しの中での練習は辛い時もありましたが、仲間や先輩方のおかげで乗り越えることができました。初めは空振りばかりだった私も、何とかラリーを続けられるようになりました。同期とは休日や平日の隙間時間を縫って本学のコートで練習することもあり、互いに切磋琢磨して実力を伸ば

ばしています。私は今こうして山口大学のキャンパスを歩いていることがとても嬉しいです。私は小学生の頃から毎年医学祭に行っていた程医学部に入学することを夢見てい

ました。私を支えてくれた両親や先生方には感謝の思いでいっぱいです。これからも初心を忘れずに日々精進を重ね、人間としての幅を広げていきたいと思っています。

## 大学生生活の現状

医学科 二年 梶川 佑



解剖実習が始まったのは

今年の4月。医学部での一種の登竜門ともいえる解剖学実習に緊張とワクワクが入り混じった気持ちを抱いていた自分が懐かしい。長いようであつという間だった解剖実習を通して学んだことは大きく2つある。

1つ目は、身体の構造、例えば筋肉などがアトラス(図版集)と実物では大きく印象が異なるということだ。実習中は、アトラスに書いてある通りに割出した

ものが出てこなくて、しばしば苦戦したことを覚えてい

る。実物を見た後にアトラスを見るとなんてわかりやすい参考書なんだろうと思っただが、アトラスを見

て、実物を見ると首をかしげることも多々あった。絵はイメージしやすいように誇張して描かれている場合も多いのでそのようなことが起こったのだと思っただ

が、その位置や周りの構造を熟知して初めて見たいものが見えるようになるのだと思っただ。

2つ目は、協力すること、コミュニケーションをとることの大切さである。解剖実習は毎回割出するべき項目が多々あり、班員と役割を分担するなどして作業を進めないと実習時間内に実習を終えることができない。また、女性と男性で異なる体の構造や、割出できなかつた体の構造は他の班に見せてもらう必要がある。どちらにせよ一人だけでは解剖学実習は成り立たないと

いうことだ。これは将来医師

師になって医療を行うときにも当てはまるのではないかと考えた。同じコミュニケーションの中で意思疎通を図り、結束力を高めることが大切なのだとかわかった。

解剖実習を終えて、私自身、人間としても、医学に携わるものとしても大きく成長できた気がする。また、

実習をともに行つた医学科の仲間たちと一種の団結力が生まれたようにも感じた。献体をしてくださった方々、実習中私たちに指導してくださつた先生方への感謝の心を忘れずにこれからの勉強や実習に励み、良い医師になれるように精進していこうと思う。

## 大学生生活の現状

医学科 三年 中村 優那



新型コロナウイルスの影響を受け始めてから1年が経ち、試験が忙しかった2年生も終わって3年生に進級しました。3年生になつてからは6月に行われる基盤系統一試験に向けて2年生で学んだ基盤医学系科目の復習と、新たに習つた展開医学系科目の毎週行われる試験に向けての勉強をしていくような生活を送っていました。授業は対面で行うことができず、友人と直接会って一緒に授業を受けることができたため、怠けることなくしっかりと授業内容の理解に取り組む

ことができたり、精神的に支え合えることで気持ちが安定したりとオンライン授業だった昨年度に比べて充実していたように感じます。

同時に、部活動で主将になり、部活動の運営を行っていく立場になりました。運営は思っていた以上に大変ですが、職務を全うする中で自分自身が成長していることができると考えています。授業、部活動の両立をしていく今年度の大学生活は忙しかったですが、感染予防対策を講じながらも例年通りの、人と接する生活を行うことができますことに幸せを感じています。

基盤系統一試験を終えてからは自己開発コースが始まりました。自己開発コースでは国内の他大学や海外

の大学で研究を行うオリジナルコースや学内でのプログラムコースがありますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、昨年度に引き続き海外でのコースは中止、他大学でのオリジナルコースは一部のみ開催となり、ほとんどの学生は学内のプログラムコースとなっております。

私は学内のコースを希望したため、変更等はなく、研究に携わる生活が始まりました。はじめは研究にあまじみの無い私にとって、

## 大学生活の現状

医学科 五年 瀬戸口 恵理



2019年12月に中国武漢市で初めて確認された新型コロナウイルス感染症は2020年2月から急速に世界で拡大し始め、本邦においても猛威を振るってききました。これに伴って外出自粛要請や緊急事態宣言、3密の回避や新しい生活様式の推奨などが行われ、私たちの日常生活は大きく変化しました。どこまで例年

論文を読んで研究分野の知識を身につけることさえ難しかったですが、担当の先生方に教えていただいていた

新しい論文も理解が進んでいききました。研究についての知識が深まるとともに、研究の意義や必要性、面白さが分かってきてとても興味深く感じながら日々過ごしています。

今後も多くの先生や友人、家族との関わりを大切にしながら自分を律した大学生活を送りたいと思います。

と同じように実習ができるのか、そもそも病院に入ることのできるのか見通しの立たない中始まった私たちのポリクリ実習ですが、楽しく充実した日々を過ごしながら気づけば折り返し地点を迎えています。

実習初日は担当患者さんの手術を8時間見学させていただきました。初めての手術室、初めての臨床現場で右も左も分からない中、先生方は手術内容や疾患について未熟な私にも分かるように丁寧に解説してくださりました。全てを理解す

ることはできませんでしたが、先生方の凛とされたお姿は今でも鮮明に記憶しています。

カンファレンスでは、先生方が患者さん一人一人の治療方針について様々な方向から熱心にディスカッションされており、教科書の一辺倒な知識だけではない生きた医療を感じました。

外来実習では患者さんの訴えを正確に把握する言葉選びなど、先生方の細かい工夫や努力の片鱗に触れ、臨床現場の様々な場面に学ぶべきことがあると思いました。

担当患者さんには直接お会いできないことも多いですが、カルテ診察でも先生方のご指導のもと実際に患者さんを診察させていただくイメージをしながら学ばせていただいています。

患者さんご家族の面会制限がある中、制限こそあるものの臨床現場を実際に目で見て肌で感じて学ばせていただいております。患者さんだけでなく、周囲の方々のお気持ちや医学を学ぶ環境に感謝を忘れず、日々学業に実習に励んで参りたいと思います。

## クラブ紹介

### 軽音楽部

医学科 三年

藤井 桐子

現在、山口大学医学部軽音楽部の部長を務めさせていただいております。医学科3年の藤井桐子と申します。

軽音楽部は、1年生8人、2年生6人、3年生12人、4年生4人、5年生1人、6年生6人の37人で活動しています。楽器は、サクソフーン、ピアノ、ギター、ベース、ドラムです。毎週火曜日と金曜日に活動して

いて、火曜日はパートごとに練習、金曜日は全体で合わせの練習を行っています。主にジャズを演奏しており、スウィングジャズやラテンジャズ、ボサノバなど幅広いジャンルの曲に挑戦し、秋季定期演奏会をはじめとした様々な演奏会に向けて日々練習に励んでおります。

バンドマスターの指導の下で部員は練習を行います。今年度からは毎回の練習で録音を撮り部員全員がそれを聞く時間を設けています。自らが客観的に自分の演奏を聞いて問題点を挙げ改善

することにより高みを目指しております。

演奏形式はビッグバンドとコンボの2種類があります。ビッグバンドとは大人数編成で演奏する形式のこと、リズム楽器と管楽器による大迫力な演奏が魅力です。それに対してコンボは少人数で演奏する形式のことで、演奏者が少ない分個々の楽器の音を楽しむことができます。定期演奏会ではビッグバンドとコンボの両方の形式により演奏し、医学祭などではコンボ形式による演奏を行っております。また、新たに始めた取り組みとして、月に1回の部内演奏会が挙げられます。

こちらでは部員が自由にコンボのグループを組み他の部員に曲を披露します。演奏する機会が増えることで部員一人一人のスキルアップが期待され、また、演奏を聴く側も先輩や同期、後輩の姿を見て自分のこれからの練習の励みになると考えています。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で秋の定期演奏会が中止となり部活動も行うことができないという状況でした。OBの先輩方にも演奏に参加していただく予定だったため非常に残念に

思いました。しかし、今年度はこのような状況の中、少しずつではありますが活動を再開することができました。再び仲間と共に楽器を演奏することができるとに感謝しつつ日々精進していきたいと考えております。

最後にはなりますが、顧問の篠田教授と多くの先輩方のご支援のおかげで、私たちは軽音楽部としての活動を続けることができます。部員一同を代表し深く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

部内演奏会が挙げられます。こちらでは部員が自由にコンボのグループを組み他の部員に曲を披露します。演奏する機会が増えることで部員一人一人のスキルアップが期待され、また、演奏を聴く側も先輩や同期、後輩の姿を見て自分のこれからの練習の励みになると考えています。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で秋の定期演奏会が中止となり部活動も行うことができないという状況でした。OBの先輩方にも演奏に参加していただく予定だったため非常に残念に



# ニューフェイス

## 初期臨床研修を終えて

山口大学医学部附属病院 第三内科

高橋 奈歩

私は卒業後、済生会山口総合病院で2年間研修をさせていただき、各科の先生方には本時代に病院見学や実習で伺った際、先生方の丁寧な指導だけでなく、コメディカルや事務の方などを含めたスタッフ同士の仲が良く、風通しの良い職場だと感じることが研修先として希望したきっかけでした。研修



2列目左が高橋

中もその印象が覆ることはなく、各科の先生方には本当に沢山のことをご指導、ご教授頂きました。診療科が定まった今となつては中々得ることの難しい貴重な機会であつたと改めて感じています。研修中、当直などの救急業務では内科・外科問わず全ての受診患者さんの初療に当たりました。私は元々内科志望ではありましたが外科症例の縫合なども度々させていただき、手技にある程度の自信を持つことができました。また同期や先輩・後輩研修医が遭遇した救急症例の情報などを互いに共有することで、同じような症例に出会った際にどう対応す

べきかのシミュレーションを行うことができました。現在は第三内科の一員となり診療の中で己の未熟さを痛感していますが、医師人生最初の2年間に得たこと感じたことを忘れず、

これから患者さんに、自らに関わる多くの方に、真摯に向き合つて参ります。済生会山口総合病院  
<https://www.saiseikai.or.jp/facilities/3501-0001/>

## 初期臨床研修医の2年間

山口大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科

藤原 慎凜子

私は山口大学を卒業後、研修先として済生会下関総合病院を選択しました。その理由として2つのことがあります。1つ目の理由は、救急外



前列右が藤原

来で経験できる症例が多い点です。内科系疾患から外傷までまずは研修医が診察するため、迅速に状況判断し、どう対応すべきかを考える力をつけることができました。2つ目の理由は、私は学生の頃から麻酔科志望であり、済生会下関総合病院の麻酔科での研修を勧められたことです。2年間の内約6か月間、麻酔科で研修し、神経ブロックや気管挿管、ルートの確保など様々な手技を丁寧にご指導いただきました。また、先に述べたように診療科も多かったため心臓血管外科、呼吸器外科、産婦人科など色々な症例の麻酔を経験でき、非常に恵まれた環境であると思えます。一人ひとりの状況の異なる症例に対し、いかに工夫して全身管理をするか、ということを考える麻酔科の魅力をより一層強く感じた研修でした。

現在、山口大学で麻酔科医として働き、自分の未熟さを痛感してばかりですが、知識を自分のものにしながらか自分自身のやり方を確立していく面白さも実感しています。これからもより成長できるように、広い視野を持って学びたいと思う次第です。

オリピックもパラリンピックもようやく終わりました。昨年より長期にわたって続くコロナ禍に、今夏の記録的な長雨も加わり、国民も医療機関も疲弊しています。しかしここで一つ元気を出して、コロナ鎮静化に向けて全員で協力し合っていきたいです。

幸い山口県はワクチン接種率が全国NO.1を誇っています。これも皆様方の努力の賜物といえます。今後も引き続き皆様の御健闘を祈っています。(山本浩造)

### 編集後記

諸般の社会情勢より昨年に続き今年度も五四会の開催を中止します。  
 幹事 福田進太郎 菅 一能

### 訃報

大草正典先生(昭26年卒) 平成29年1月25日逝去  
 鶴谷秀人先生(昭34年卒) 令和3年5月16日逝去  
 東島嘉親先生(昭26年卒) 令和3年7月23日逝去  
<https://www.saiseikai.or.jp/>  
 ご冥福をお祈りいたします。